

オオモンキキリガ

幼虫は春にハルニレの若い実を食べる。最大長30mm.

比較的珍しい昆虫のようだが、ときに多発してハルニレの雌花や若い実を食い荒らすことがある。



1. 老齢幼虫，体長26mm，1992/6/8.



2. 雌成虫，体長15mm. 1を飼育.



3. 食害されたハルニレの実。1992/5/20.

1～3. 新得町，ハルニレ.

【学名】 *Xanthia tunicata*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ヤガ科 (Noctuidae)

【分布】 北海道，本州；アムール.

【特徴】

幼虫は老齢で体長30mm程度。中～終齢の間で色彩はほとんど変化しない。腹部第3または4節以降の背面両側にやや淡い菱形の模様が並ぶ。肛上板（腹端背面）は中央が暗く，その両側が黄褐色に縁取られる。

【生態】

ハルニレに寄生する。

成虫は9～10月に出現といわれている。北海道の低山地では6月上旬に中～終齢幼虫が採れ，飼育したところ6月中～下旬に土中で繭となり，8月下旬に成虫になった。

幼虫は雌花や若い実を主に食べるが，葉も食べる。若～中齢幼虫は樹上で若い実を綴って巣を作るが，老齢幼虫は樹上にみられ

ない。幼虫は刺激を与えると、体が柔らかくなり死んだまねをする。

【被害】

1990～92年十勝新得町でハルニレの実が豊作になったが、昆虫による実の食害率は充実したものの90%以上に達した。主要な加害昆虫の1つはオオモンキキリガであった。なお、葉の食害はわずかである。

【文献】

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2:1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

*1992. 清和研二. ハルニレの種子散布と稚苗の出現. 日本林学会北海道支部論文集, 40: 77-79.

*1996. 原秀穂. ハルニレの種子の害虫. 光珠内季報, 101: 4-7. (被害, 生態, 形態)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

オオモンキキリガ yaga/oomonki/
kaisetuh.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992/12/28-2001/4/9.

1yochu.jpg, 1seishu.jpg, 1higai.jpg

「写真1」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992.